

Application of Participation

Associated School Project (ASP) for Promoting International Education

地域に住む人とのかかわりを通して、

つながりの大切さを感じ取り、未来をひらく子の育成

～ 大好き「中野」つながるプロジェクト ～

1. Description of the Project (プロジェクトの概説)

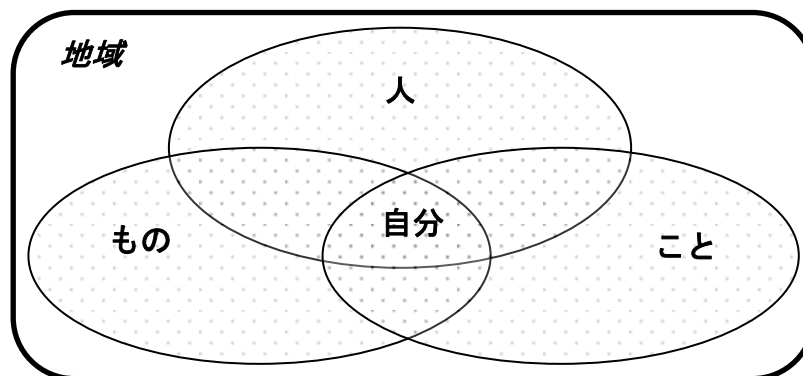
本校は、平成26年度に創立30周年を迎える学校である。開校当時より地域住民の方々は協力的で学校のために骨身を惜しまずに活動して下さる。その一方で、近年、マンションや団地の増加により、新たに中野校区に転居してきた住民が増えている。保護者の出身は全国に広がり、外国人児童も1割を超える。そのため、地域のつながりは薄れつつあるのが現状である。

そこで、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育(E S D)を推進していくことで、人・自然・社会との「かかわり」や「つながり」の大切さを感じ取り、地域に生きるひとりとして、地域を愛し、協働で課題解決をし、未来をひらく子を育成したいと考えた。

本校では、これまでも人とのかかわりを大切にした体験活動を重視し、地域に根ざした教育活動を実践している。このことを持続発展教育(E S D)の推進に結びつけていくために、これまでの教育課程を見直し、生活科・総合的な学習の時間を中心に各教科・領域・児童会活動・行事を関連づけたE S D アクティビティプログラムを策定し、実践を行っていくことにした。

2. Objective of the Project (プロジェクトの目的)

本校では、E S Dの取り組みを「地域」の視点と「人」「もの」「こと」の3つの観点から捉えていくことで、つながりを大切にしていこうと心育を育てていく。また、学習をすすめていく上で、みつめる→調べる→はたらきかける 過程をふむことで、課題解決する力を身につけさせたいと考えた。



(1) 人とのつながり

- ・地域に住むお年寄りや保育園児
- ・地域ではたらく人
- ・聾学校の児童

地域に暮らす人と人のつながりや社会と人とのつながりの大切さを認識し、地域に生きるひとりとしての責任感や地域を大切にしていこうとする心を養う。

(2) ものとのつながり

- ・自然環境と生活
- ・社会環境と生活
- ・食と生活

食や環境と自分たちの生活とのつながりを認識し、地域社会へと視野を広げ、自分の生活を見つめ直し、将来にわたって、環境に配慮した生活をしていく力を養う。

(3) こととのつながり

- ・地域の歴史
- ・地域の伝統的な祭り
- ・日本の伝統文化

伝統文化や開拓に関わった先人の苦勞を知り、地域とのつながりを尊重し、将来にわたって地域に生きる一人として生活する意識を育てる。

3. Execution (プロジェクトの実施)

本校では、前述の目的のとおりESDへの取り組みを、3つの観点から学習をすすめていく。その学習を深めていくことで、地域とのつながりや社会の一員としての価値を見出し、友達と共有し、よりよくしていこうとする基礎的な能力を養うことができると考えている。

各学年で目標を達成するために、総合的な学習の時間や生活科等で体験的な学習や人とのかかわりを重視して活動を進めていく。そのための実践計画として、ESDアクティビティプログラムを作成し、実践を進める。

(1) 各学年の取り組み

① 人とのつながり

- ・お年寄りに昔の遊びを教えてもらおう (1年生：生活)
- ・保育園の子といっしょに遊ぼう (1年生：生活)
- ・はたらく人を調べよう (3年生：社会)
- ・中野校区探検隊 (3年生：総合)
- ・「夢に向かって」～働くってどういうこと～ (5年生：総合)
- ・豊学校の子と交流しよう (全学年：生活・総合)
- ・国際交流会・世界の国について知ろう (行事)

② ものとのつながり

- ・守ろうわれらの地球を (4年生：総合)
- ・リサイクルをしよう (委員会活動)
- ・野菜パワーをもらおう (2年生：生活)
- ・給食のひみつ (3年生：総合)
- ・ものづくり体験 (全学年：行事)
- ・もぐもぐキャンペーンで残食をへらそう (委員会活動)

③ こととのつながり

- ・地域の祭りを調べよう（3年生：社会）
- ・神野新田のなりたちを調べよう（4年生：社会）
- ・日本の伝統文化の体験（クラブ活動）

(2) 学習を進めるためのESDアクティビティプログラム
(平成25年度 3年)

ひと もの こと

教科領域	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合	中野校区探検隊（聾学校）					給食のひみつ					
社会	はたらく人を調べよう（聾学校）						地域の祭				
行事	ものづくり体験										

（聾学校） 聾学校の児童と一緒に学習に取り組んでいる。

(3) 学習の実際

①人とのつながり

1年生活：昔の遊びを楽しもう



こままわしを教してもらっている子どもたち

②ものとのつながり

4年生総合：守ろうわれらの地球を



環境について調べたことを発表する子どもたち

5年総合：「夢に向かって」

～働かってどうということ～



美容師の仕事を経験している子どもたち

全学年行事：ものづくり体験



紙コップシューター作りをする3年生

③ こととのつながり

クラブ：伝統文化を体験しよう



和太鼓クラブで太鼓を打つ子どもたち



お茶クラブで抹茶を入れる子どもたち

4. Type of materials to be used (使用する教材)

- 「小学校キャリア教育の手引き」 文部科学省平成 23 年 5 月 (WEB 版)
- 中野校区老人会
- 万福寺
- 豊橋南部調理場
- 豊橋生菓子組合
- 豊橋共同職業訓練協会豊橋高等技術専門校
- 東三河高等理美容学校
- 結婚式場マリエール

5. Is there any type of evaluation to examine the effects of the project on students' comprehension and attitudes? (プロジェクトに対する児童の理解と姿勢の評価方法)

指導教諭は、日常の生活の中でも児童の態度や姿勢を観察する。

プロジェクトの後には、次のように評価する。

- (1) ふり返りカードの記述
- (2) 学習の成果をまとめた新聞やカード
- (3) 学習や活動のまとめとしての授業公開や学習発表会での成果の発表

上記の評価とともに、学校評議員を通じた地域からの評価や、全保護者を対象としたアンケート調査等から、ESDアクティビティプログラムの見直しを図り、活動内容を改善していく。

On behalf of my institution, I apply for participation in the UNESCO Associated Schools Project and give the assurance that this institution will make an active contribution to the Project, as outlined above, for a minimum period of two years. At the end of every year, I shall submit a report of the Project to the ASP National Co-ordinator of my country.

(本学校を代表して、ユネスコASPの参加申請をし、少なくとも2年間は上記概要にそってASPに貢献する活動を行うことを確約します。また、毎年ASPコーディネーター(※日本の場合は日本ユネスコ国内委員会)に活動のレポートを提出します。)

27 / Jan. / 2014

Date (日付)

Principal's name (校長名 (※直筆))

Position, (役職) Principal

Institution's name (学校名)

Nakano Elementary School